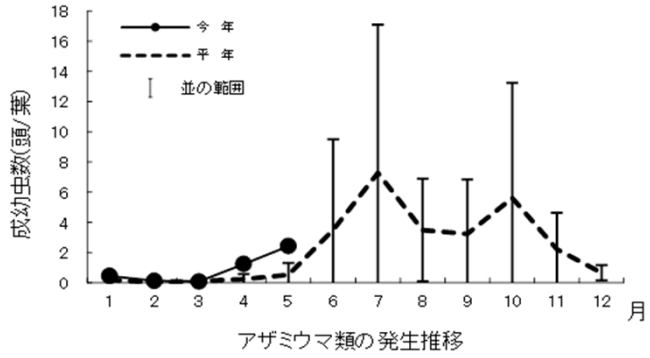
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
5 月の発生量（現況）	ややや多		
6 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、５月より発生量は増加すると考えられる。		

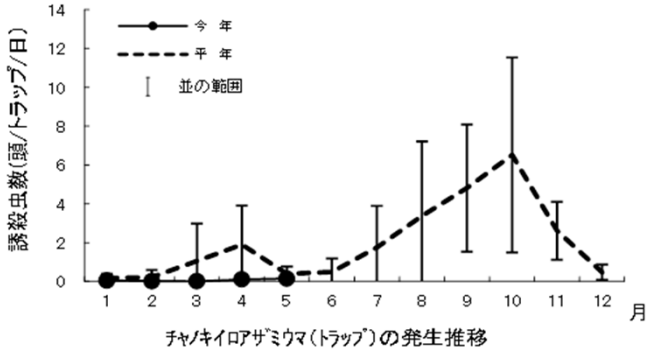
発生量の根拠（調査結果）

（見取り調査）



アザミウマ類の発生推移

（トラップ調査）



チャノキイロアザミウマ(トラップ)の発生推移

・ 防除員による報告：中発生（本島北部）・少発生（本島南部）

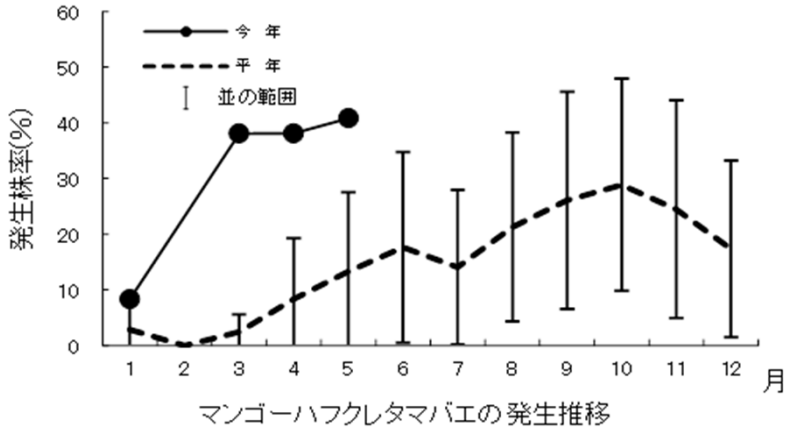
防除のポイント

・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・不要な新梢は、施設外に除去する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
5 月の発生量（現況）	ややや多		
6 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の推移から、５月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

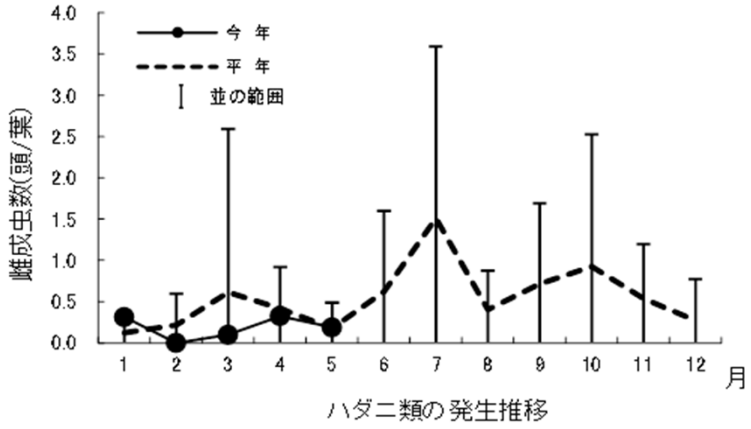
・不要な新梢は、ほ場外に除去する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
5 月の発生量（現況）	並		
6 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、５月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

（成葉における調査結果）



ハダニ類の発生推移

・ 新梢あたりの寄生雌成虫数は 0.1頭以下だった。
・ 発生種はシュレイツメハダニであった。

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状